

焼酎リユースびん普及拡大に向けて(ディスカッションペーパー)

現状の認識

- 関係各者に多大なご協力をいただき、これまで普及啓発事業を中心に、いろいろと取組を実施してきた。
- 具体的な動きとしては、奄美市が中心となり、焼酎びんリユース推進に向けたモデル事業を進めていただけている。今後、取組みの深化と他地域への展開も期待している。
- 県内酒造メーカー各社においても、関心を持っていただいている方も多く、きっかけがあれば進められるのではないかと期待している。

社会動向

- リユース推進に向けて、製びんメーカーでも900mlマークびんを新たに製造し始めたところもある（供給ルートが増えた）。
 - 国でも本格的にびんリユースを進めるべく検討を開始した。
 - 全国的にも、リユースびん推進に向けて様々な取組が進められており、
 - ・ユーザーである料飲店から動き出した「ワタミ」の事例
 - ・びん回収方法を工夫した「宮城方式」の事例
 - ・地域として動き出した「郡山市モデル」
- これらも活用・参考にしつつ、鹿児島でリユースが進められないかと期待している。

今後の方向性（たたき台）

- 環境負荷低減に資するリユースの取組み全般（900mlを中心に、一升びん、720mlびんも）を推進していきたい。
 - リユースの取組が拡がることで「九州・鹿児島の焼酎は中身はおいしいし、ボトルもエコ」といったPRを通じ、環境負荷低減と焼酎産業の活性化を図りたい。
 - また、焼酎に関連する各産業（小売・卸などの流通、回収・洗浄を実施するびん商）の活性化、市民・事業者の方への環境教育・啓発も期待され、さらには“鹿児島”そのものの魅力向上の一助ともなれば観光産業などの活性化も期待される。
 - 最近では、リユースという取組に対する見直しの動きや、消費者や事業者において環境意識の高まりがみられるほか、当事務所が本年度に実施した調査でも、かなりの数の酒造メーカーがリユースびんの導入に関心を持っていることが判明した。このため、焼酎を中心としたびんのリユースについて、さらなる普及拡大に向けた取組を継続・拡大していくと考えている。
- (方針案1) 料飲店などにおいて、リユースびん（900mlびん）の利用・回収に積極的な事業者にとって利点があるような仕組み作りを支援する。
- (方針案2) 消費者に対してリユースびんの購入を促進する事業を実施し、酒造メーカーがリユースを実施するインセンティブとなるような事業を展開する。

以上を踏まえ、今後、焼酎リユースびんの普及拡大に向けて、「どのような取組みが必要か」、「どのように取組んでいけば良いか」皆さまから忌憚ないご意見をいただきたく。

(以上)